

## 命の大切さ、平和への願い

校長 井上 春好

1学期には、人の命が犠牲になる大変痛ましい事件がありました。登校中の小学生が襲われて多くの児童や保護者が被害者となった事件、中学生による同級生の刺殺事件、アニメ制作会社に対する無差別放火事件など、犠牲となった方やその家族、関係する方々の悲しみや怒り、無念さを思うと言葉がありません。また、「死ぬ」「消えろ」など、命の大切さを正しく理解していない言葉が、子どもたちの日常会話やSNSの中で安易に使われており、繰り返し指導をしている事実もあります。

「人の命は地球より重い」と言われます。世の中で一番大切なものはあなたの命です。あなたの命が大切だということは、あなたの周りにいる人の命も一番大切だということです。

3年生は、9月12日（木）、修学旅行で広島を訪れました。原爆ドームや平和記念資料館を見学し、被爆体験講話、原爆ドーム対岸での平和セレモニー、宿舎での被爆体験記朗読会を体験しました。実際に、自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じた生徒たちの心は大きく揺れ動きました。

命の大切さ、平和への願いについて、一人一人が学んだことや感じたことを今、自分ができる方法で、身近な人や次世代に伝えていくことの大切さと使命を強く感じた体験になりました。

### 《平和セレモニーの内容》

#### ○「平和宣言」

1945年8月6日、原爆が投下された地に私たちは立っています。あの日から74年が経ちました。あの日の朝、広島に投下された一発の原子爆弾は、人々の生活を想像もつかぬほど恐ろしい、まるで地獄のような世界に塗り替えてしまいました。…すさまじい爆風、熱風、大量の放射線が襲ったのです。…私たちは、1年生のころから「戦争と平和に関するレポート」を毎年作成してきました。2年生の都内巡りでは、横網町公園に行き、戦争の恐ろしさを学びました。また、木川先生にも東京大空襲についての体験談を伝承という形で伺いました。さらに、1学期には、被爆者の伝承者の方からのお話を聞いて、より「平和」に対する理解を深めることができました。…私たちが今、こうしている間も原爆症で苦しんでいる人、心に傷を負っている人がいます。…世界では争いの絶えないところはいくつもあります。私たちが学校で授業を受けたり、友だちと遊んでいる時、戦争に参加しなければならない子供たちや家の手伝いで学校に行けない子供たちがいます。私たちが安心して眠りにつくとき、一晩中空爆におびえて眠れない子供たちがいます。私たちよりも幼い子が、次々と戦争で命を落としています。戦争や貧困がないだけが平和なのでしょうか。平和とはいったい何のことでしょうか。ただ争いのない世界のことでしょうか。ただ脅威のない世界のことでしょうか。あの日、広島を深い苦しみと悲しみで包み、地獄へと変えた原爆を保有している世界を平和といえるのでしょうか。今、世界には、あの日の原爆よりさらに威力のある核が存在しています。これだけ核兵器を保有している世界を平和とは言えないと思います。まだまだ「平和」な世界への道のりは遠く長いのです。だからこそ、これからも戦争について学び、考え、行動に移していくことが大切です。今、私たちが手にしているピースキャンドルは、私たち自身が作ったからこそ、一人一人の「平和」への願い、想いが込められています。そして私たちのピースキャンドルを通じて広島から世界へ発信されていきます。私たちは二度と同じ過ちを繰り返さないように、二度と戦争で人々の命が奪われないようにするために、学び、考え、行動していかな

#### ○「ピースキャンドル」点灯



ければなりません。世界中の人々と支えあわなくてはなりません。私たちは被爆国の一員として、核兵器の恐ろしさ、戦争の愚かさ、怖さを忘れず、その真実を次世代に伝えなくてはなりません。この思いを胸に、私たちの「平和」への想いをここの広島から世界に届けます。

#### ○ 被爆ピアノによる「大地讃頌」合唱



